

# 第16回関東甲信越高校生溶接コンクール 同時開催 北陸高校生溶接コンクール

## 開催要領

2026年4月25日(土)

東 部 地 区 溶 接 協 会 連 絡 会  
一般社団法人日本溶接協会東部地区溶接技術検定委員会  
北 陸 地 区 溶 接 協 会 連 絡 会  
関 東 地 区 工 業 高 等 学 校 長 会  
北 信 越 工 業 高 等 学 校 長 会

## 1. 開催案内

### 1.1 名称

第16回関東甲信越高校生溶接コンクール 同時開催 北陸高校生溶接コンクール

### 1.2 趣旨

高校生が溶接技能を競うことにより、日本のものづくりを支える溶接技能の普及を図り、製造業の担い手育成を支援する。併せて令和8年度開催予定の「高校生ものづくりコンテスト全国大会」溶接競技への関東および北信越ブロックの出場者を選出する。

### 1.3 主催

東部地区溶接協会連絡会

### 1.4 共催

- 一般社団法人日本溶接協会東部地区溶接技術検定委員会
- 北陸地区溶接協会連絡会
- 関東地区工業高等学校長会
- 北信越工業高等学校長会

### 1.5 後援

一般社団法人日本溶接協会

### 1.6 特別協力

産報出版株式会社

### 1.7 開催日とタイムスケジュール

(1) 開催日:2026年4月25日(土)

(2) タイムスケジュール

#### ① 第1組

(ア) 8:30~9:00:受付・競技材確認・着替え

(イ) 9:00~9:30:集合・準備・競技材と溶接棒渡し・服装と持ちもの検査・ブースへ移動

(ウ) 9:30~9:40:工具セット・電流調整

(エ) 9:40~10:10:競技

(オ) 10:10~10:20:片付け・次班準備

#### ② 第2組

(カ) 10:00~10:30:受付・競技材確認・着替え

(キ) 10:30~11:00:集合・準備・競技材と溶接棒渡し・服装と持ちもの検査・ブースへ移動

(ク) 11:00~11:10:工具セット・電流調整

(ケ) 11:10~11:40:競技

(コ) 11:40~12:30:片付け完了まで

(3) 審査スケジュール

(サ) 10:20~15:00

## 1.8 会 場

(一社)日本溶接協会 溶接技術中央検定場

住所 〒210-0864 神奈川県川崎市川崎区池上町1-15

【注】 競技参加付添者の駐車は不可

## 1.9 競技種目

競技は被覆アーク溶接の部1種目とし競技課題は2.2項に示す。

## 1.10 参加資格

関東甲信越・北陸の各溶接協会より推薦された高校生とし、令和8年(2026年)4月1日現在で満18歳以下のもの。

## 1.11 参加人員

各溶接協会から推薦された2名とし、付添は原則1校1名とする。

## 1.12 競技参加費

競技参加費は無料とし、派遣経費の補助限度額は推薦者(各溶接協会)の裁量に委ねる。

(東部地区のみ該当)

## 1.13 参加申込方法

(1) 所定の申込書に必要事項を記入の上、令和8年2月13日(金)までに、各溶接協会から、コンクール開催事務局へ申し込むこと。(選手顔写真は不要)

(2) 参加申込書記入上の注意

① 使用する被覆アーク溶接棒の銘柄とその長さを記入すること。

② 競技材の清掃用として持参可能なスラグハンマ、ワイヤブラシ、たがねで持参するものに「参加申込書」の所定の欄に「○」を記入する。) )

③ 保険加入のため付添者氏名、生年月日、勤務先を「選手付添名簿」に記入すること。

## 1.14 成績発表および表彰

(1) 競技会長は、審査委員会の成績報告に基づき受賞者を決定し、成績優秀者に対して以下を授与する。受賞 及び 受賞者数 は、以下とする。

① 関東甲信越高校生溶接コンクール出場者：

最優秀賞（1名）、優秀賞（1名）、優良賞（5名以内）

② 北陸高校生溶接コンクール出場者：最優秀賞(1名)、優秀賞(1名)、優良賞(1名)

(2) 審査委員会は、東部地区溶接協会連絡会と北陸地区溶接協会連絡会の合わせた審査結果を5月末までに決定し、6月初旬 審査結果を各地区連絡会幹事経由で各指定機関に送付する。

(4) 東部地区溶接協会連絡会（関東甲信越）と北陸地区溶接協会連絡会は、上記の審査結果を東部地区および北陸地区に分け、順位を決定し、賞状を授与する。

また合わせて関東ブロックと北信越ブロックに分けて、順位を決定し、令和8年度開催予定の「高校生ものづくりコンテスト全国大会」溶接競技への関東ブロック、北信越ブロックで、1位の選手 各1名を選出し、各ブロック工業高等学校校長会に推薦する。

(5) 全国大会への出場要件は工業高等学校長会に加入していることとする。

## 2. 参加および競技について

### 2. 1 競技内容

参加者は事前に 2.2 競技課題~4.審査方法の内容を確認しておくこと。

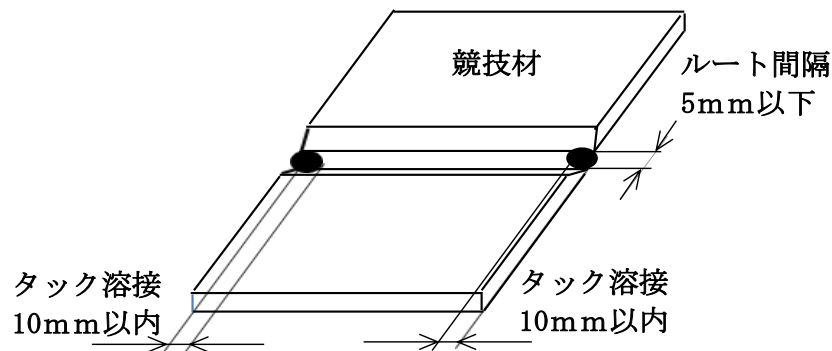
### 2. 2 競技課題

課題は溶接技能者評価試験 (JIS Z 3801 / WES 8201) の N-2F (被覆アーク溶接 (手溶接)、中板の裏当て金なし、下向、突合せ継手) を参考規格とし、最終層は競技材の中央部にある指定範囲内でビードを継ぐこと。

- 溶接姿勢：下向
- 試験材料厚さ区分：中板 (9 mm)
- 継手の区分：板の突合せ溶接
- 裏当て金：なし
- 開先形状：V形 (開先角度 60 度)
- 棒継ぎ指定範囲寸法：30 mm

### 2. 3 競技材

- (1) 主催者ならびに各連絡会が事前に配布した競技材料を選手本人がタック溶接 (仮付溶接) し、コンクール当日持参し審査員の確認を受ける。なお、タック溶接 (仮付溶接) の位置は、表裏を問わず板端から 10 mm 以内とし、ルート間隔は 5 mm 以下とする。
- (2) 競技材は、JIS G 3101 「一般構造用圧延鋼材」に規定する SS400 とする。



① タック溶接の位置は板端から 10 mm 以内

② ルート間隔は 5mm 以下

### タック溶接における注意事項

### 2. 4 溶接棒

- (1) 初層は低水素系の棒径 3.2 mm とし、2 層目以降はイルミナイト系の棒径 4 mm とする。
- (2) 参加者は、以下に示す銘柄の中から溶接棒を選び参加申込時に主催者に申請すること。
- (3) 主催者は申請のあった銘柄の溶接棒を選手 1 名に対し、乾燥済みの低水素系：5 本とイルミナイト系：5 本を用意する。

① 低水素系

LB-52U (株式会社神戸製鋼所)

S-16W (日鉄溶接工業株式会社)

② イルミナイト系

B-10、B-14、B-17 (株式会社神戸製鋼所)

A-10、A-14、A-17 (日鉄溶接工業株式会社)

2. 5 主催者が会場に準備するもの

交流溶接機 (300A)、ホルダ (キャブタイヤケーブル付)、溶接作業台、腰掛、工具箱、電流調整用鋼板、鍛冶ハサミ、スラグハンマ、片手ハンマ、敷板 (2枚)、シャコ万、やすり、サンドペーパー、ワイヤブラシ、たがね、石筆、清掃用具、掛け時計 (選手が個々に音を出さない時計を持ち込むことは可能であるが、審査は掛け時計を基準とする)

【主催者

- ① 作業台：幅 450×奥行 450×高さ 400mm
- ② 椅子：座面高さ 400～520mmの範囲で調整可能な座面回転式の丸椅子
- ③ 敷板（幅 50×長さ 150×板厚 9mm、2枚）
- ④ 電流調整用鋼板（幅 95×長さ 95×板厚 9mm）
- ⑤ C型シャコ万（口開き 80×アゴの深さ 75mm）



(参考写真のパーコ型とは若干違います)



- ⑥ やすり（やすり面長さ 250mm）
- ⑦ スラッグハンマー（350g×長さ 350mm）
- ⑧ たがね（刃幅 16×長さ 180mm）
- ⑨ ワイヤブラシ
- ⑩ 片手ハンマ（450g×長さ 350mm）



主催者が会場に準備する主なもののイメージ (寸法は参考値)

2. 6 参加者各自が持参するもの（事前送付可）

(1) 競技服装と保護具

- ① 競技服装：作業帽または保護帽、作業服上下、作業靴（安全靴が望ましい）
- ② 保護具：溶接用皮製保護手袋（全長約280mm以上）、前掛け、腕カバー、足カバー、保護めがね、溶接用保護面、防じんマスク

(2) 測定用具

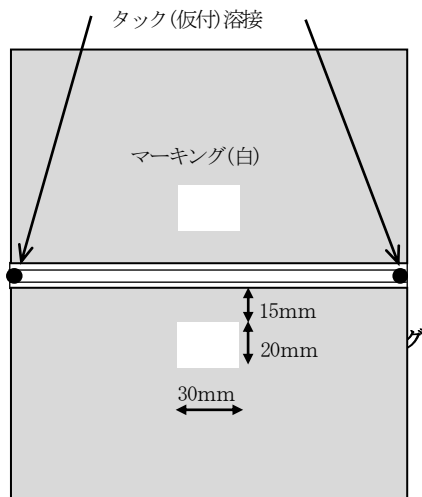
電流計、電圧計、すきまゲージ、スケール、角度ゲージ、ノギス、時計、アークを中断用目印としての残棒（50mm未満：1本）

（注）電流計及び電圧計はキャブタイヤケーブル接続金具を取り外さずに外部で測定できるものに限定する。

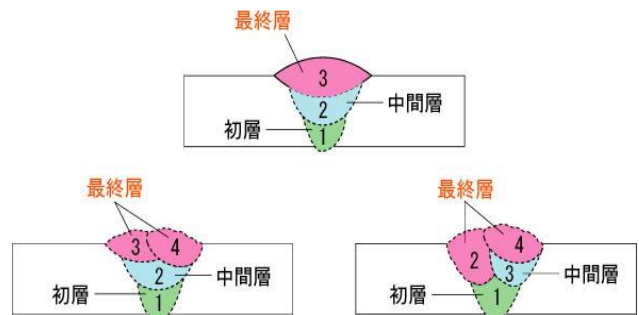
- (3) 練習材：競技材と明確に識別できるものとし、種類、形状及び数量は自由とする。
- (4) 競技材：選手本人がタック溶接（仮付溶接）し審査員の確認を受け合格したもので、選手およびその関係者が棒継ぎ指定範囲などのマーキングをしていないこと。
- (5) スラグハンマ、ワイヤブラシ、たがねについては主催者が標準品を準備するが、競技材の清掃用として別途各々1個までは持ち込むことは可とする。
- (6) 選手は、(2)～(3)項のものが不要だと判断した場合は持参しなくてもよい。
- (7) 主催者が会場に準備するもの以外は一切貸与しない。

3. 競技の方法および注意事項

- (1) 競技時間は30分以内とする。（練習、本溶接、競技材の清掃及び立会い審査委員の確認に要する時間を含む）
- (2) ビードの重ね方及び層数は自由とする。
- (3) 溶接中、溶接棒の取り替えは自由とする。
- (4) 溶接棒は最後まで使用しなくてもよい。

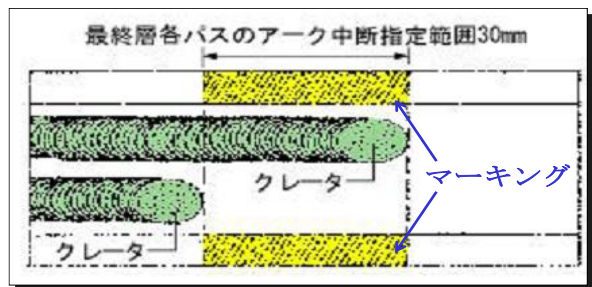


最終層アーク  
中断指定範囲マーキング  
（白マーキング箇所）



表面に現れるビードは、最終層とみなす

最終層の定義



クレータの先端が指定範囲内にあること  
最終層各パスの中断指定範囲

- (5) 最終層は、競技材の中央部にある指定範囲内（主催者がマーキングした範囲）でアークを中断し、立会い審査委員に申告して確認を受けた後、中断位置から同一方向に競技材の終端まで溶接する。アークを中断する目印として、残棒を主催者がマーキングした範囲においてもよい。
- (6) 競技材は、本溶接終了後清掃し、競技終了を立会い審査委員に申告した後、所定の場所に提出する。
- (7) 主催者が会場に準備するもの、参加者各自が持参し審査員が認めた以外の工具や治具を使用してはならない。
- (8) 溶接電流及びアーク調整は、練習材または電流調整用鋼板を使用し、作業台や固定治具にアークを出してはならない。
- (9) 溶接棒は主催者が用意したもの以外を使用してはならない。
- (10) 溶接中及び溶接後に、変形の矯正を行ってはならない。
- (11) たがねはスラグ及びスパッタを取るのに使用してもよいが、溶着金属をはつきり取る目的で使用してはならない。
- (12) ビード修正のためのアークによるビード流しをしてはならない。
- (13) 溶接作業を中断して、スラグ・スパッタの除去、ブラシがけなど他の作業を行うときは、溶接棒はホルダから外し、ホルダは所定のホルダ掛けに納めて置くこと。
- (14) 競技材の清掃に際し、やすり等を用いて溶接部を修正してはならない。例えば、ワイヤブラシや布やすり等で過度の清掃を行い、ビードの波目が消えるほど磨くなど
- (15) 本溶接が終了したら、競技材を清掃する前に溶接機のスイッチを切ること。
- (16) 立会い審査員の競技時間終了コールを聞いてから「競技終了」の申告をした場合は競技時間超過の扱いとする。
- (17) 競技中に事故が発生した場合は、実行委員長の指示を受け適宜の処置を受けなければならない。
- (18) 競技中に他人の妨げになるようなことをしてはならない。
- (19) タック溶接（仮付溶接）の再溶接は、以下の場合とし審査員の確認後行う。
  - ① タック溶接（仮付溶接）位置が不良の場合
  - ② ルート間隔規定外の場合
  - ③ タック溶接（仮付溶接）が外れた場合
  - ④ 審査員が特に認めた場合タック溶接（仮付溶接）の再溶接は、競技番号打刻、マーキング前にグラインダーでタック溶接（仮付溶接）を除去して競技材を解体して行い、再度、審査員の確認を受ける。
- (20) 競技材の本溶接を開始した後は、溶接のやり直し、競技材作り直しはできない。但し、実行委員長が不可抗力を認めた場合はこの限りではない。
- (21) 参加者は安全作業に適した服装及び保護具を着用しなければならない。

- (22) 競技課題、競技要領及び注意事項に違反した場合は、減点または失格とすることがある。
- (23) 安全上から、ホルダーを持つ反対の手で溶接棒を支えて溶接してはいけない。

#### 4. 審査方法

- (1) 提出された競技材は、別途定める競技審査基準に則り審査委員会が審査を行う。
- (2) 審査項目は外観試験、曲げ試験、違反行為、不安全状態、不安全行為について行う。  
配点は、外観 及び 曲げ試験合計は、200 点とする。  
審査基準については、「第 16 回関東甲信越高校生溶接コンクール 審査基準」参照のこと。
- (3) 外観試験及び曲げ試験の評価は複数の審査委員が行う。
- (4) 不安全状態及び不安全行為の審査項目については、競技中の服装、不安全状態（保護具未使用）、不安全行為について減点する。
- (5) 同点の場合の取扱いについて  
以下の順で各項目の減点数を比較し、減点の低いものを上位とする。また、順位は同一としない。
  - ① 実技審査（溶接作業、服装、不安全行為）  
↓減点数が同点の場合
  - ② 外観試験（総合評価以外の採点項目（持ち点 40 点からの減点））  
↓減点数が同点の場合
  - ③ 外観試験（総合評価（加点 10 点））  
※ここでは、加点数が高いものを上位とする  
↓
  - ④ 内部検査【曲げ試験】とする。

## 5. 大会組織

### (1) 競技会長・実行委員長

廣田 二郎 (東部地区溶接協会連絡会会長)

### (2) 実行委員会

### (3) 委員 佐々木 政實 (一般社団法人 千葉県溶接協会)

委員 宮本 誠 (一般社団法人 茨城県溶接協会)

委員 小泉 隆 (一般社団法人 栃木県溶接協会)

委員 茂原大助 (一般社団法人 群馬県溶接協会)

委員 野澤伸一 (一般社団法人 埼玉県溶接協会)

委員 天野裕一 (一般社団法人 東京都溶接協会)

委員 城 敏之 (一般社団法人 首都圏溶接協会東京)

委員 立川晴雄 (一般社団法人 神奈川県溶接協会)

委員 坂爪佑衣 (一般社団法人 新潟県溶接協会)

委員 岩間 和信 (一般社団法人 山梨県鉄構溶接協会)

委員 山本潤一 (一般社団法人 長野県溶接協会)

委員 津田理恵 (一般社団法人 福井県溶接協会)

委員 西沢正人 (一般社団法人 石川県溶接協会)

委員 大久保裕 (一般社団法人 富山県溶接協会)

### (4) 審査

一般社団法人 日本溶接協会 東部地区溶接技術検定委員会

## 6. 事務局

### 第 16 回関東甲信越高校生溶接コンクール事務局

〒290-0024 千葉市中央区中央港 1-13-1 千葉県ガス石油会館 2F

(一社) 千葉県溶接協会 事務局長 佐々木

TEL 043(246)5712 , FAX 043(246)5713

以上